

フロイディッヒ・フリューゲル Freudig.Flügel

23年
6月号

2011年6月10日
編集・発行／大正会館内
大正フロイデ：西風 勝

「大正フロイデ合唱団」の すべての方へ

合唱指導 野上 貴子



皆様、こんにちは。

この原稿用紙を頂いてから、
べ切一日前の雨の降る夜に
書かせて頂いています。
(すぐに出来ない子なの
で...) 何でも関西は、
今日(五月二十六日)梅雨
入りしたとか。

二月に第九演奏会を大盛
況の内に終え、早、四ヶ月
が経とうとしています。
皆様の演奏会での感想や
決意、合唱団との出会い
等々『大正フロイデ』ニュー
ースで拝読させて頂き、お
一人お一人が、色んな思い
で来られていることを知り
ました。
そんな時、ふつとある言
葉が頭に浮かび、辞書を手
にしました。



合唱

『合』は「一つになる」
「まじわる」「むすぶ」
「あつめる」「同じになる」
「であう」「こぞつて」
『唱』は声をあげてうたう。
自分では理解していたつも
りでしたが『合』には沢
山の意味があるんだと。
そして人生の先輩であら
れる皆様は真の意味を理
解し体現されているんだ！
と確信しました。
『唱』については、楽譜
をよく読んで声をあげてう
たつてゆきましょう。
その時に自分以外のパ
ートの声を感じられると、ま
さしく『合唱』なのでしょ
うね。

最後にになりましたが、西
本先生はじめスタッフの皆
様には大変お世話になり、
ありがとうございます。
九月のモーツァルト『レ
クイエム』、一瞬一瞬、一時
一時を大切にうたいます。
皆様、体調等崩されませ
んように。

雨が少し止んだようで
す...。
一杯やりますかー

心ひとつに



テノール
鶴見 利男

ひょんなことから、第九
の世界に迷い込んで早くも
四年半が経過した。当初、
三ヶ月余りの猛練習後の第
九本番ステージで流した冷
や汗は、遠い過去の思い出
となった。ようやく少しは
様にはなったかと思う時も
あるが、練習を重ねる度に、
楽をしたりごまかしたりし
て歌っている部分、間違っ
て覚えていた箇所や無理な
発音をしている自分に気付
き、その都度修正を試みて
いる。「第九は奥が深い」と
感じているこの頃である。
第九の習得には相応の努
力と時間を要したが、有る
程度習得してしまえば、ど
こでも歌える共通語である。
第九を通して多くの人達と
出会い、共に歌い、喜び合
い、さらに人と音楽との輪
を広げていく事を体験でき
る事は大変ありがたく、幸
せに思う。

何度か大正以外の第九合
唱に参加したことはあるが、
得るものは多い。当然の事
だが、合唱指導者、ピアノ
スト、歌唱レベル、合唱団
の雰囲気は異なり、音楽の
解釈や表現も微妙に異なる
のが普通である。冒頭に述
べた気づきに出会う事も多
い。このようないつもと異
なる指示や環境下での練習
は、時には新たな試練であ
ったり、心地良い刺激であ
ったりして楽しい。参加す
るに当たっては、心を真っ
白にして臨むことを心掛け
ている。

ある演奏会後、合唱指導
者からは「演奏会は大成
功！でも曲は完成したわけ
ではありません。継続
は力！」とのコメントを頂
いた。先生の安堵感と団員
に対する励ましと期待に溢
れたあたたかい言葉で、い
つまでも心に残っている。

どこの合唱団でも運営に
は苦心し、悩みはつきもの
のようであるが、他の合唱
団を知ると大正の良さが見
えてくる。それは個性的な
プロデュース、数多くの熱
心な団員、複数の優れた合
唱指導者とピアノリスト、区
やコミュニティ協会の強力
な支援などではなからうか。
記念イベント成功に向けて、
民主的運営に努めている。
合唱団の目標を掲げ、団員
の声を吸い上げ、ベクトル
を会わせて行く運営が肝要
であり、成否を分けると思う。
五周年記念公演成功に向
かって心を一つにして邁進
する団員の一人である。

